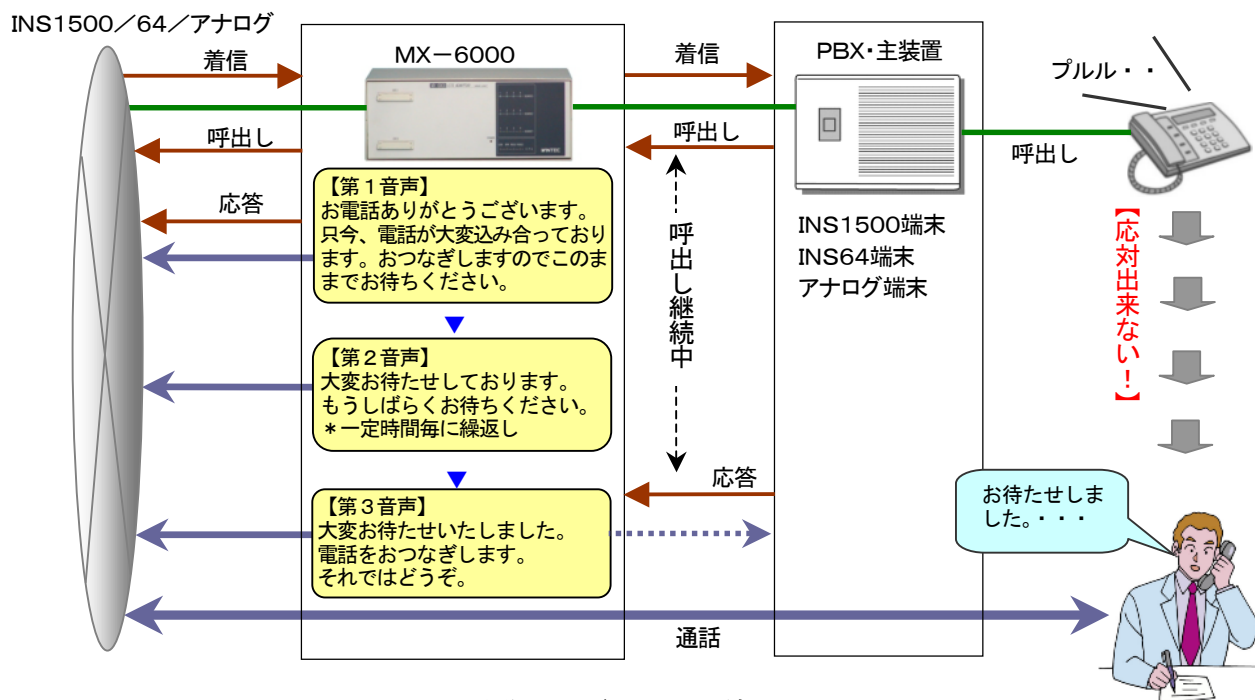


MX-6000CTIアダプターによる 着信お待たせ動作【パラメータ自動動作編】

着信に対し指定された時間内に後位PBXが応答しない場合、**後位PBXへの呼出しを継続したまま**、MX-6000が自動応答し、お待たせの案内メッセージを再生します。
後位PBXが着信応答後は、網側との双方向通話に切り替わります。

- 制御用PCアプリケーションは不要で、MX-6000単体で動作します。
- INS1500回線、INS64（U点、S/T点）回線、アナログ回線に対応します。
 - *INS1500は最大2回線（46ch）、INS64は最大30回線（60ch）、アナログは最大28回線。
 - *アナログ回線の場合は、別途アナログ内線ボードが必要となります。
 - *INS回線、アナログ回線の混在が可能です。（トータル60ch以内）
 - *INS回線の任意チャネル着信サービスには対応していません。
- お待たせ動作仕様でご注文いただいた場合には、お待たせ用パラメータ設定および案内音声は予め登録済みで出荷いたしますので直ぐに運用可能です。
 - *お客様にて案内音声を作成・登録する事も可能です。
 - *案内音声はMX-6000本体内のフラッシュメモリーに保存されます。
- 複数回線着信となった場合でも案内音声は先頭から再生されます。
- 指定されたダイヤルイン番号での着信のみお待たせ動作を実行する事が可能です。（登録数は20番号）



■動作イメージ *INS回線

【標準登録音声】 *お待たせ動作仕様でご注文いただいた場合

- 第1音声：「お電話ありがとうございます。 只今電話が大変混み合っております。お繋ぎしますので、このままお待ちください。」
- 第2音声：「大変お待たせしております。 もうしばらくお待ちください。」
- 第3音声：「大変お待たせいたしました。 電話をお繋ぎします。 それではどうぞ。」
 - *第3音声は本体内に登録されていますが、出荷時設定では再生されません。
 - *再生する設定とした場合、INS回線ではPBX側にも聞こえます。

■パラメータ設定

MX-6000は以下のパラメータ設定の内容に従い動作します。

※パラメータ設定の変更は、PCより行います。

※パラメータ設定ツールは、添付のセットアップディスクよりインストールします。

●基本動作設定

お待たせ動作を実行する為に必要な基本設定です。

※お待たせ動作仕様でご注文いただいた場合には下記設定済みにて出荷いたします。

- ・チャンネル別設定－接続制御(2)－着信音声案内動作＝お待たせ動作
- ・チャンネル別設定－IVR 共通－自動応答動作＝パラメータ動作
- ・チャンネル別設定－I64/1500(1)－動作モード設定＝擬似スルーモード *INS 回線のみ
- ・チャンネル別設定－I64/1500(1)－端末動作を使用＝ON *INS 回線のみ

●お待たせ動作設定

お待たせ動作に関する設定です。

チャンネル別設定－接続制御(2)－■着信お待たせ で設定します。

※以下の出荷時設定値は、お待たせ動作仕様でご注文いただいた場合の値です。

設定項目	説 明
①お待たせ応答時間	出荷時設定：10秒 *10mS～655秒 着信に対しMX-6000がお待たせ応答するまでの時間を設定します。 設定時間内に後位PBXが応答しない時、PBXの呼出しを継続したままMX-6000が着信応答します。
②第1音声番号	出荷時設定：1-2-3-4（半角） お待たせ応答直後に再生する音声番号を設定します。音声番号は6個まで指定できます。 <ul style="list-style-type: none">・音声番号1＝お電話ありがとうございます。(Wmv2100.wav)・音声番号2＝只今、電話が大変混み合っております。(Wmv2101.wav)・音声番号3＝お繋ぎしますので、(Wmv2102.wav)・音声番号4＝このままお待ちください。(Wmv2103.wav)
③第1再生中端末応答	出荷時設定：再生停止 第1音声再生中に後位PBXが応答した時の、再生停止の有無を設定します。 「再生停止」＝⑧Min 再生時間設定に従い再生停止し第3音声再生判定を実行します。 「再生終了待機」＝再生完了を待つて第3音声再生判定を実行します。
④第2音声待機時間	出荷時設定：10秒 *10mS～655秒 第1音声再生後、または第2音声再生後から次の第2音声を再生するまでの待機時間を設定します。 ※再生待機中は「⑨再生外の送出音」で指定された音を送出します。
⑤第2音声番号	出荷時設定：6-7（半角） 第1音声再生後、一定時間（第2音声待機時間）後位端末が応答できない時の案内音声番号を設定します。第2音声を使用しない場合は、空白としてください。 <ul style="list-style-type: none">・音声番号6＝ただいま呼び出しています。(Wmv1102.wav)・音声番号7＝もうしばらくお待ちください。(Wmv2105.wav)
⑥第2再生中端末応答	出荷時設定：再生停止 第2音声再生中に後位端末が応答した場合の、再生停止の有無を設定します 「再生停止」＝⑧Min 再生時間設定に従い再生停止し第3音声再生判定を実行します。 「再生終了待機」＝再生完了を待つて第3音声再生判定を実行します。
⑦第3音声番号	出荷時設定：空白 *再生されません お待たせ動作中に後位端末が応答した時の案内音声番号を設定します。 第3音声用として以下が登録されています。 <ul style="list-style-type: none">・音声番号8＝大変お待たせいたしました。(Wmv2106.wav)・音声番号9＝電話をお繋ぎします。(Wmv2107.wav)・音声番号10＝それではどうぞ。(Wmv2108.wav)

⑧Min 再生時間	<p>出荷時設定：0 秒 *10mS～655 秒</p> <p>第 1 再生中端末応答および第 2 再生中端末応答設定が「再生停止」となっている場合に有効で、音声の先頭より設定された時間分は再生した後、再生停止します。</p> <p>P B X 応答時において既に時間経過している場合は、即停止となります。</p> <p>再生開始直後に P B X が応答した時に即停止した場合、再生音がノイズのように聞こえる事を防止する為の設定です。</p> <p>P B X 応答時に即再生停止とする場合は、「0」を設定します。</p>
⑨再生外の送出音	<p>出荷時設定：呼出音</p> <p>案内音声再生中以外の網側への送出音を設定します。</p> <p>「呼出音」＝N T T 準拠のリングバックトーン（RBT／400Hz）を送出します。</p> <p>「保留音」＝MX－6000 内部で持っている保留音を送出します。（1 種類）</p> <p>「外部音」＝MX－6000 オーディオ入力端子に接続された機器からの音を送出します。</p> <p>「無 音」＝送出音は無音となります。</p>
⑩送出音レベル	<p>出荷時設定：51（半角）*0～63dB</p> <p>再生外の送出音を「呼出音」または「保留音」とした場合の送出レベルを設定します。</p> <p>数値を大きくすると送出音も大きくなります。</p> <p>*再生音の送出レベルは「その他設置環境に依存する設定」を参照願います。</p>
⑪第 4 音声番号	<p>出荷時設定：11-12-13（半角）</p> <p>P B X 応答監視時間を設定している場合の呼出し時間オーバー、または後位 P B X からの切断により、呼出しが強制停止した時に再生する案内音声番号を設定します。</p> <p>再生終了後、MX－6000 より回線を切断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声番号 1 1：ただいま回線が混み合っつながりにくくなっています。（Wmv 1101.wav） ・音声番号 1 2：恐れ入りますが、しばらくしてからお掛け直してください。（Wmv1103.wav） ・音声番号 1 3：ありがとうございました。（Wmv1204.wav） <p>※P B X 呼出し時間の設定は、次頁「設置環境に依存する設定」を参照願います。</p> <p>※アナログ回線では呼出し監視時間設定は有りません。よって呼出し時間オーバーによる第 4 音声番号再生は実行されません。</p>
⑫音声案内 DI 判定	<p>出荷時設定：OFF</p> <p>ダイヤルイン番号によるお待たせ動作実行の制御を指定します。</p> <p>「OFF」＝全ての着信に対しお待たせ動作を実行します。</p> <p>「ON」＝登録されたダイヤルイン番号での着信のみお待たせ動作を実行します。</p> <p>※ダイヤルイン番号の登録</p> <p>お待たせ動作を許可するダイヤルイン番号は、「システム共通」－「TEL(1)(2)」の TEL(2)－CH31～CH50 で指定します。（最大 2 0 番号登録可能）</p>

※お待たせ標準音声、お待たせパラメータ設定ファイルは添付のセットアップ C D に格納されています。

「P B X 応答中の音声再生」

⑦第 3 音声番号を設定している場合や、③第 1 再生中端末応答、⑥第 2 再生中端末応答が再生停止設定で且つ⑧Min 再生時間を設定して場合には、P B X 応答中にも音声再生されます。

この時、INS64／INS1500 回線では P B X 側にも再生音が聞こえますが、アナログ回線では P B X 側は無音となります。

●設置環境に依存する設定

設置環境に応じて下記設定願います。

※以下の出荷時設定値は、お待たせ動作仕様でご注文いただいた場合の値です。

①動作モードの設定（アナログ回線のみ）

出荷時設定のスルーモニターでの運用が基本となりますが、ナンバーディスプレイ契約が必要なCTIシステムとの併用においてPBXがナンバーディスプレイに対応していない場合にはアダプターモードにします。

- ・アナ局(1)－動作モード設定＝ 「スルーモニターモード」＊出荷時設定
「アダプターモード」

②付加サービスの設定（アナログ回線のみ）

契約されている付加サービスを設定します。

- ・アナ局(1)－回線付加サービス＝ 「付加サービス無し」
「ナンバーディスプレイ」＊出荷時設定
「PBダイヤルイン」
「モデムダイヤルイン」

※ナンバーディスプレイとモデムダイヤルインの両方を契約されている場合は、モデムダイヤルインとしてください。

③フッキング操作の設定（アナログ回線のみ）

通話中転送、キャッチホン等フッキング操作が有る場合に設定します。

- ・Ch別設定A－アナ局(1)－フッキングサービス契約＝ 「フッキング操作無し」＊出荷時設定
「フッキング操作有り」

④再生音レベルの設定

お待たせ案内音声の再生レベルを回線種別単位で設定します。

- 【アナログ回線】 アナ局(2)－再生音レベル ＝ 「1～63」＊出荷時設定＝42
 - 【INS回線】 I64/1500(2)－再生音レベル＝ 「1～63」＊出荷時設定＝42
- ※63が最大音量となります。

⑤PBX呼出し時間の設定（INS回線のみ）

PBXの呼出し制限時間を設定します。 お待たせ応答時より監視開始となります。

設定時間を経過した場合、第4音声再生後、回線を切断します。

- Ch別設定A－I64/1500(3)－CD_T11＝ 0～255×10秒 ＊出荷時設定＝0（無制限）

※アナログ回線は無制限となります。

■音声の作成・登録

お客様にてオリジナル音声を作成しMX-6000に登録する事が可能です。

基本的には音声の録音・登録は、標準添付の「音声データ作成ユーティリティ」を使用しますが、録音に関しては、他社製の録音ソフトを使用する事も可能です。

※「音声データ作成ユーティリティ」の使用方法は「音声データ作成ユーティリティ・オンラインヘルプ」を参照願います。 ※MX-6000へ登録可能な音声の合計時間は「約48秒」ですのでご注意ください。

1) 音声録音

最初にMX-6000に登録する為の音声を録音し、ファイル化する必要があります。

登録可能な音声形式は、WindowsのWAVE形式「8bit μ -LAW、サンプリング周波数8kHz モノラル」です。

「音声データ作成ユーティリティ」を使用して録音された場合は自動的に上記形式となります。

※長い音声の場合には、分割して録音される事をお勧めいたします。 分割したままMX-6000に登録後、パラメータ設定にて複数の音声ファイルを連続して再生する指定が可能です。

●音声データ作成ユーティリティによる録音

①MX-6000のマイク端子からの録音

MX-6000のマイク端子に市販のマイクを接続し録音します。

(PC用3.5 ϕ ステレオミニプラグのコンデンサマイク等)

AGC (オート・ゲイン・コントロール) 機能が利用できますので最適なレベルでの録音が可能です。

但し、AGCの弊害により背景ノイズが目立つ場合がありますが、2) 項の編集により修正が可能です。

本録音は、実装されている回線チャネルを使用します。 よって、運用中に録音する場合には着信が入らない時間帯で行う等の注意が必要です。

※運用前の録音であれば電話回線を接続する必要はありません。

②PCのマイク端子からの録音

PCのマイク端子にPC用マイクを接続し録音します。 MX-6000との接続は不要です。

録音レベルはPCのマイクプロパティで調整しますが、標準添付の音声ファイルと同程度のレベルとなるよう録音してください。 *MX-6000のパラメータ設定により再生音量の調整は可能です。

●他社製録音ソフトによる録音

他社製の録音ソフトを使用しての録音、または専門のガイダンス製作会社に依頼される場合は、上記音声形式にファイル化してください。 対応音声形式にファイル化出来ない場合は、WAVE ファイルまたはWMA ファイルでしたら「音声データ作成ユーティリティ」で対応形式に変換可能です。

但し、高音質の音声データを変換しますと音質が劣化しますのでご注意ください。

2) 録音音声の編集

「音声データ作成ユーティリティ」を使用し、録音済みの音声の編集が可能です。

無音部の削除、無音の挿入、および任意の位置への他の音声ファイルの挿入等が可能です。

3) MX-6000への登録

「音声データ作成ユーティリティ」を使用し、作成した音声ファイルをMX-6000に登録します。

登録する音声ファイルを指定した際に「音声番号」が付与されますので、この音声番号をパラメータに設定します。(第1音声番号～第4音声番号)

※既にMX-6000に登録されている音声の「一部のみ変更・追加」の場合でも部分登録はできません。

必ず変更の必要の無い音声ファイルも一括で登録する必要が有ります。

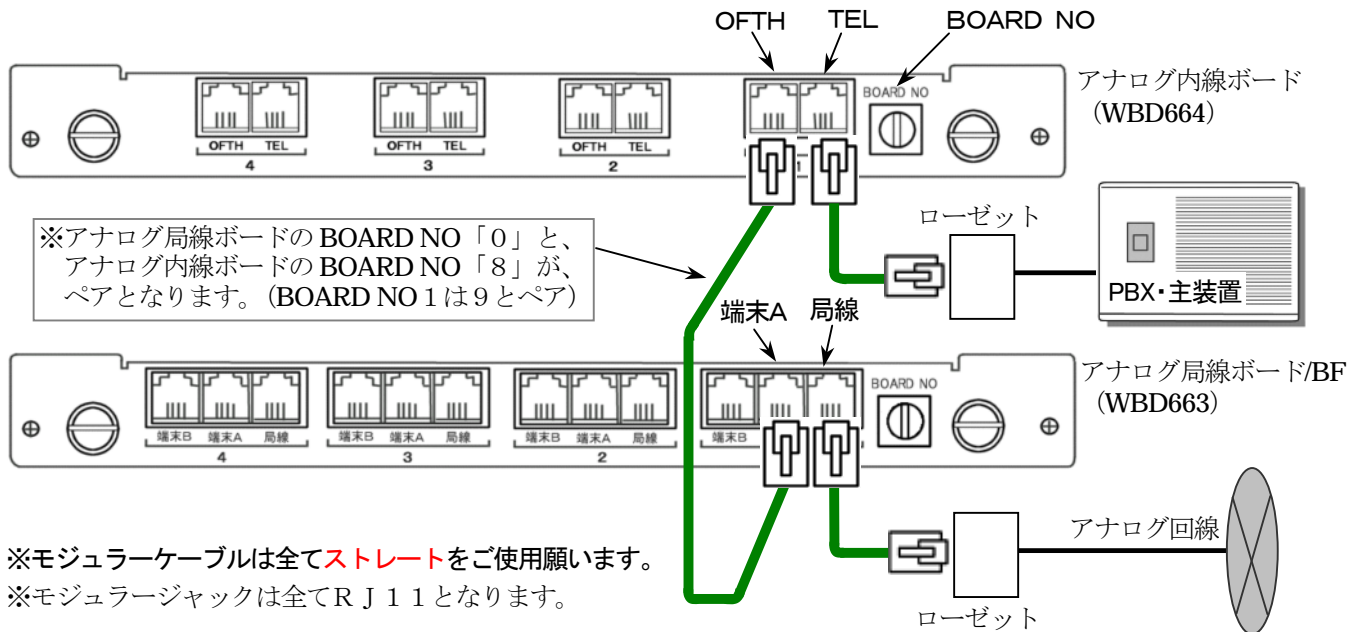
※MX-6000への登録音声を弊社製「バージョン更新ツール」で書き込み可能なファイルに保存する事が出来ます。 バックアップ用として作成される事をお勧めいたします。

※運用中に登録音声を変更する場合は、発信・着信が無い状態で行ってください。

■接 続

1) アナログ回線

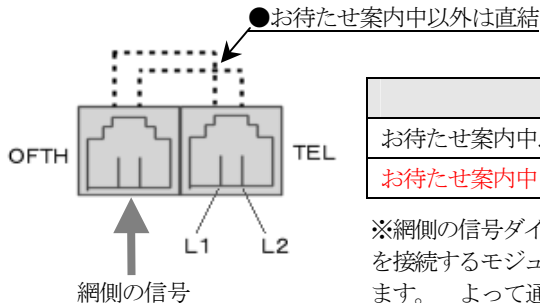
アナログ局線ボード/B F (WBD663)とアナログ内線ボード(WBD664)をセットで使用します。



【内線ボードの極性】

アナログ内線ボード(WBD664)のTEL端子のL1/L2極性は、以下となります。

網側のL1/L2極性と内線ボード出力のL1/L2極性は同一となるよう配線してください。



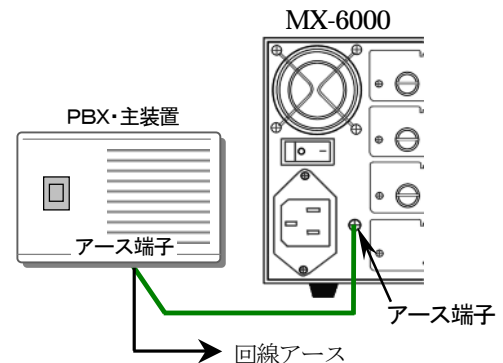
	L 1	L 2
お待たせ案内中以外	網側の信号ダイレクト	網側の信号ダイレクト
お待たせ案内中 (極反)	-48V	接地

※網側の信号ダイレクト：アナログ局線ボード「端末」と内線ボード「OFTH」を接続するモジュラーケーブル経由で、網側とPBX間は完全に直結状態となります。よって通話中のMX-6000電源断においても通話は保持されます。

●配線作業はMX-6000電源断状態にて行い、発信／着信が正常に動作する事を確認してください。

●お待たせ動作中は、MX-6000内線ボードからの直流供給／Ring信号に切り替わります。
PBXの極性反転検出回線によってはMX-6000とPBXとのアース接続が必要となります。
正常に動作しない場合には、MX-6000とPBXをアース接続してください。

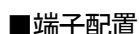
※MX-6000アナログ内線ボードから送出されるIR信号(Ring)は、網側からのIR信号タイミングと同期して出力されます。



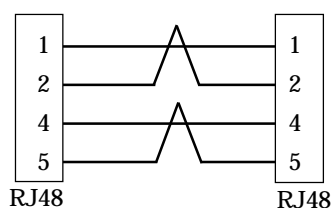
アナログ局線ボード/BFの動作表示は標準動作と同じ仕様となりますが、アナログ内線ボードは標準とは異なります。

2) INS1500回線

※詳細は「設置工事マニュアル」または「取扱説明書」を参照願います。



※接続ケーブルはツイスト線をご使用願います。(モジュラーピン番1と2、4と5のペア線)



8

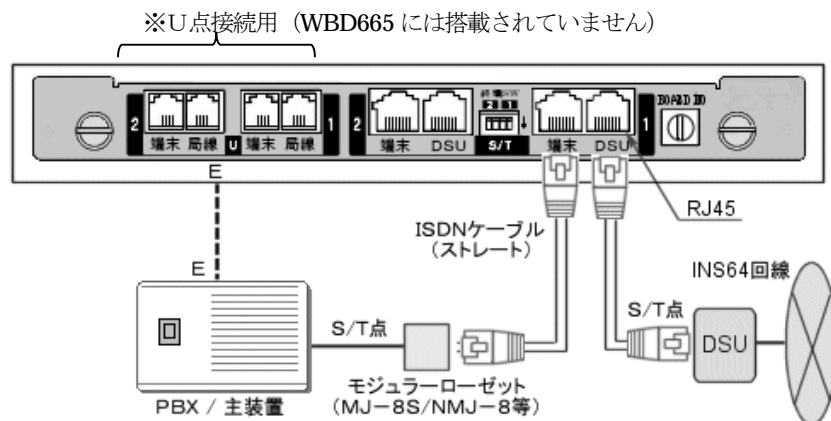
3) INS64回線

INS64の「U点接続」、「S/T点接続」のどちらにも対応します。

※詳細は「設置工事マニュアル」または「取扱説明書」を参照願います。

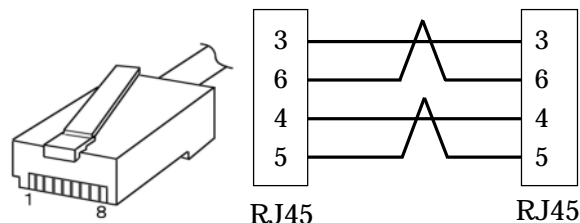
①S/T点接続

DSUまたはひかり電話GWとPBX間に挿入設置します。



■端子配置

端子番号	機能	DSU端子名
3	送信+	T A
4	受信+	R A
5	受信-	R B
6	送信-	T B



ストレートケーブル使用の場合

①U点接続

網側とPBX間に挿入設置します。

